

令和5年12月22日（金）

## 第2学期 終業式に当たって



佐賀県立武雄高等学校長 下村 昌弘



全校の皆さん、おはようございます。

今日は冬至。しかも昨日から雪です。体調管理が大切な時期になりました。栄養と休養をしっかりとってこの冬を乗り切ってください。

TAKE OFF 手帳の準備はいいですか。メモが習慣になるといいですね。

さて、令和5年度第2学期終業式、この節目の日に皆さんと一緒に2学期を振り返ってみたいと思います。皆さんにとってこの2学期はいかがだったでしょうか。

体育祭・文化祭に始まった2学期でしたが、秋以降勉強も本格化しました。

1年生にとっては高校生活にも慣れ、2学期は自分のペースで生活ができ始めたのではないのでしょうか。

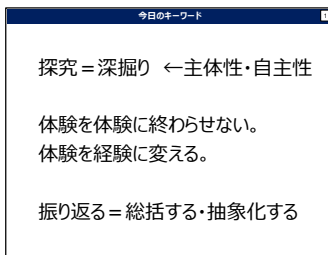
2年生の皆さん、ある意味、一番自分らしく、勉強にせよ課外活動にせよ、やりたいことに打ち込めたのではないのでしょうか。先週は思い出に残る修学旅行もありました。

3年生は、10月以降、受験勉強が本格化しました。土日のたびに模擬試験の連続でした。大学入試などの本番を経験した人もいます。

さて、そうしたそれぞれの2学期でしたが、トライ&エラー、挑戦する気持ちを大切にこれからも進んでください。

ところで、本校は、幕末の武雄領主鍋島茂義が世界に目を向け新しい技術を積極的に取り入れようとしたことにちなんで「TAKE OFF(TAKEO Future Frontier)！」をスローガンに皆さんの主体的・自主的な活動を尊重してきました。

それをより確かなものにするために、画面にも掲げているように武雄高校が「探究を中核に据えた」学校であってほしいと思っています。



「探究」とは、自分の興味・関心を深掘りすることです。それには主体性・自主性が必要です。皆さんは総合的な探究の時間やLHR、部活動や生徒会活動、あるいはいろいろな校外イベントに積極的に参加し、授業だけでは学ぶことができないことをたくさん体験してきました。修学旅行もその一つです。

そこで、大切なことは「体験を体験に終わらせない」「体験を学びの形に整える」「体験を経験に変える」ということです。これが「探究」の基本的な考え方です。

このことが大学入試など、具体的に進路獲得につながるだけではなく、卒業後の自分の生き方の基盤となります。

私は武雄高校で学ぶ皆さんには、この探究する力をつけて欲しいと思っています。

そのためには「振り返る」ことが必要です。振り返るとは総括すること、総括とは抽象化して整理することです。

そこで、今から2学期を、そして令和5年を振り返る意味で、一つの物語を紹介したいと思います。

林木林作の『二番目の悪者』という絵本です。

知っている人もいるかもしれません。

絵本ですから、もともと子ども向けに書かれたものです。

今日は時間が十分にはありませんから、少し読み飛ばしながら、全体の筋を追っていくことにします。絵を見ながら話を聴いてください。

タイトルにある「二番目の悪者」とはいったい誰でしょう、でははじめます。

昔々、ある国に、「みごとな金色のたてがみをもつライオン」がいました。右の絵がそうです。この金のライオンはほこらしげに「自分こそ選ばれし者」なのだと自負していました。

この国の王様はたいそう年老いていました。

そこで、次の王様を国民で決めるようにしました。

金のライオンは自分が王様になりたくてしかたがありませんでした。

しかし、街の広場では別のライオンが候補に上がっていました。

この絵は「街外れにとっても心の優しいライオンが住んでいるみたいよ」とスズメや猫たちがうわさしている様子です。

金のライオンはそのうわさが気になって仕方ありません。

そこで金のライオンは街外れまで見に行きました。左上は金のライオンがのぞき見る姿です。

右の絵は、土にまみれ、ほこりをかぶって作業する別のライオンの姿です。これがうわさの「銀のライオン」です。

銀のライオンは台風で壊れたフクロウおばさんの鳥小屋を直し、木の下に落ちた小鳥のひなを巣に戻してあげていました。

「こんなライオンがいたなんて。」

金のライオンは歯ぎしりして悔しがった。

「放っておけば銀のライオンが次の王様に選ばれてしまうのでは」

そう思うと気が気ではない。

「王にふさわしいのはこの私だというのに。何とかしなければ」

そこで金のライオンはどうしたと思いますか？

金のライオンは銀のライオンの悪い噂話をまきちらしました。

右の絵は、うっかり自分が木に頭をぶつけただけなのに、銀のライオンから殴られたとヒョウに嘘の話をしている場面です。

また別のところでは「銀のライオンはクマと取っ組み合いをしていた」と悪い噂を流します。

本当は、谷に落ちそうになっていた熊を銀のライオンが助けてやったのに、です。

来る日も来る日も、金のライオンは銀のライオンの悪い噂を広めて歩きました。この絵は金のライオンがシマウマにも何かひそひそ話しています。

はじめは、金のライオンが何を言っても、街の動物たちは誰も信じようとしなかったのですが、、、。

それなのにどうしたことか、ぽつりぽつりとみんなの話題に上り、静かに噂され始め、やがてじわじわ広まっていたのです。

この絵はリスやウサギ、ネコやキツネが銀のライオンのうわさをし、その悪い噂がだんだん大きく広まっていることを描いています。

この絵は、イヌや小鳥たちが「銀のライオンとトラが殴り合っていた」ということを人から聞いたと話している場面です。

こうやって銀のライオンの悪い噂がどんどん広がり、動物たちが銀のライオンと関わらない方がいいかと思いはじめました。

この噂はメールとなって、シカに届き、リスに転送され、遠くの島に住むペンギンまでに届きました。

そうやって噂はたちまち膨れ上がり、街は銀のライオンの悪い噂でもちきりになりました。

そんな中、フクロウおばさんと小鳥が「ちょっと待って」と叫びました。

「銀のライオンは親切で立派な方だ」「悪い評判は何かの間違いだ」と言いました。

根も葉もない噂の広がり、銀のライオンはただ苦笑いだけで、何も言わなかった。誤解はいつか必ず

解けると思っていたからだ。

一部始終を見ていたのは空に浮かぶ真っ白い雲だけ。

嘘は向こうから巧妙にやってくるが、真実は自ら探し求めなければ見つけれない。

雲はつぶやき流れていった。しかし、その声は誰にも届かなかった。

こうして、とうとう、金のライオンが新しい王様になりました。

金のライオンは、好き勝手に国を治め、贅沢の限りを尽くし、よその国と戦争を起こし、やがて国は荒れ果ててしまいます。

焼け焦げて煙る大地を前に、皆呆然と立ち尽くした。

ああなんということだ。

何もかも失ってしまった。もうおしまいだ。

なんてひどい王様だろう。

もし銀のライオンが王様だったらこんなことにはならなかったのよ。

そうさ、彼こそがふさわしかったのに。

「ぼくはただ銀のライオンに気を付けてって聞いたから仲間に教えただけだよ」

「わたしだって何となく心配だったから、家族に知らせただけだよ」

「おいらだってちょっと気になってメールを転送しただけさ」

金のライオンの他には悪意のあるものなど誰一人としていなかった。

みんな嘆きました。右側に書いてあります。

「どうしてこの国はこんなことになってしまったのだろう」

野原の隅で野ネズミが静かに口を開いた。

「僕は聞いた話を友達に教えてあげただけなんだよな、でも、自分の目で何か一つでもたしかめたっけ」

丘の向こうから時折ゆらめく炎が上がる。

本当に金のライオンだけが悪かったのか。

絵本はもう少し続きますが、ここでやめます。気になる人は校長室まで見に来てください。

さて、、、タイトルは『二番目の悪者』でした。そこで問題です。

二番目の悪者 読本収録 - 読者アンケート - 1/1

【問題】

(1) 「二番目の悪者」とは誰のことですか。その理由は何ですか。

(2) この話を聞いてどんなことを考えましたか。ぜひ休みの時間にも友達と話題にしてください。

まず一番悪いのは誰ですか？ これは最後にもありましたが悪意のある「金のライオン」ですね。でも、金のライオンは極端に誇張されているだけで、実は私たち一人一人の心の中に住み着いてい

る闇の部分と言えるのかもしれませんが。

では、問題の「二番目の悪者」とは誰でしょう。ちょっと隣近所で情報交換してみてください。どうぞ。

悪い噂を流した街の動物たち、リスやウサギやネコやキツネたちでしょうか。

うわさ話をメールで拡散したシカやリスやペンギンたちはどうでしょうか。

自分は違うという人はいませんか？

フクロウおばさんや小鳥はどうでしょう。間違いをただそうとしましたが、嘘をひっくり返すまでには至りませんでしたね。

こうしてみると、噂を実際には確かめずにひろめてしまった、多くの動物たちが「二番目の悪者」かもしれません。

他に意見はありませんか？ 他に大事な登場人物を忘れてはいませんか？

そう、終始沈黙を守った銀のライオンはどうでしょう。銀のライオンは、毅然として自分の不利益に立ち向かうべきではなかったでしょうか。

いやいや銀のライオンは悪くない、、、。このあたりもう少し議論したいところですね。

まとめます。

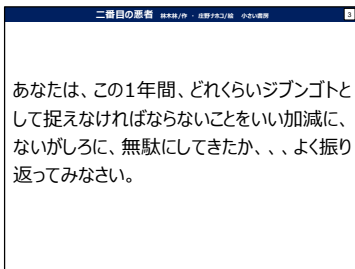
この絵本にはいくつかの問題が仕込まれています。

為政者・政治の問題。

大衆の問題。既に選挙権を持っている人もいますね、どう思いましたか。

それから誹謗中傷、人権の問題。

メールの安易な転送、情報モラルの問題。などなどです。



学期末、そして一年の終わりにあたり、私が皆さんに言いたいことは、

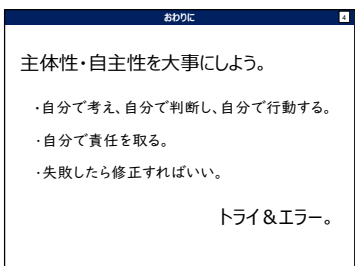
**あなたは、この一年間、どれだけジブンゴトとしてとらえなければならないことを、いいかげんに、ないがしろに、無駄にしてきたか、よく振り返ってみなさい、ということです。**

ちょっとだけ勇気を出して発言すればよかったという場面をたくさんつぶしてきませんでしたか。

あの時、もう少し頑張ったらよかったのに、という機会がいくつもあったのではないのでしょうか。

授業で、課外活動で、友達との対話で、あらゆる日常生活の場面で、勇気を出して発言する、もう少し頑張る、そういうチャンスをごどれだけ無駄にしてきたか、よく反省してほしいと思います。

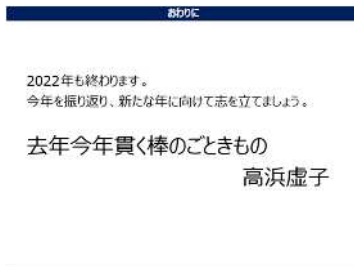
それはちょっと勇気を出せば自分を変える、自分を高められるチャンスだったはずです。



「今言わないでどうする」「今踏み出さないでどうする」「勇気をもって前に進んでください」

どうか、みなさん、これからはもっと主体的自主的に、自分で判断し、自分で行動し、自分で責任を取るという経験をたくさんしてください。

失敗してもいいじゃないですか。これからの世の中は正解のない時代とされています。間違ったら、修正すればいい。その繰り返しがこれからの時代を生き抜く「考える力・生きる力」となっていくます。



去年今年貫く棒のごときもの 高浜虚子。

「去年」と言い、「今年」と言い、人は時間に区切りをつけようとします。

しかし本来、時間というものは、一本の棒で貫かれたようなもので、断とうとしても断つことはできません。

高浜虚子は、ゆく年くる年を、棒のごとき太い信念・意志で貫けと言っています。

決意新たに、1月9日、始業式で会いましょう。それまでに太い信念を言葉にしておいてください。では皆さん、よいお年を。